ヨハネの福音書　第１９章

2012/11/20

文責：宮

書記：Φ

※ローマ総督：ローマ帝国内の行政官。現代風に言えば、ローマ帝国が日本、各地域の自治を任せられたローマ総督が都道府県知事のようなもの。当時（紀元１世紀ごろ）、ローマ帝国内では各地域の文化が尊重され帝国統治は穏やかであったが、ユダヤ地域に関してはその文化の特異性ゆえ例外的に帝国統治は順調ではなく、ユダヤ地域のローマ総督ピラトと現地ユダヤ人の関係は良くなかった。

ユダヤ人

ローマ総督ピラト

～前回より～

父なる神の御心に従うままにしようとしつつもイエス自身の心細さや苦しみが垣間見えた18章

→19章では引き続きイエスやその他の人びとの心理に注目していく。

Q1.10節のピラトの「お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、この私にあることを知らないのか」という発言、12節のピラトはイエスを釈放しようとしたという記述

　 →にもかかわらず自分が助かる道を断ったイエスの心境は？/なぜ自分で自分の首を絞めるような事をしたのか？（11節）

ｈ：これは断ったと言えるのかな？？

F：釈放されても、ユダヤ人たちの感じでは許されないような。

♀：でも、釈放自体はできたでしょ。

う：ピラトの方が力関係は上なのだから、彼が「無罪だ！」といえばいいのでは？

♀：ユダヤ人に委ねたのは、自分の意思で死刑にしたら、ユダヤ人から反乱を起こされて、本国の皇帝から能なしだと思われるからじゃない？

水：十字架につける権限があるのはあくまでピラト。最終的にはピラトが自身の権限の下で十字架につけた。ユダヤ人に委ねたという事ではない。ピラトは責任を持って決めなければいけない立場にいる。

宮：11節がイエスの回答となるのではないかなと。あくまで砂漠権威はピラトに神が与えたものなので。以前、イエスは十字架にかかる運命を嘆いていた。それに対して、何も抵抗を起こさないのはなぜだろうなと思ったので、問いを立てました。

Q2.26節・27節ではイエスは自身の死後の援助を弟子（ヨハネ）に依頼するがそれはどんな心情から？

　 ⇔ヨハネ2章4節

宮：これは、18章のSQで出た残された家族が心残りだからということだろうか。母をヨハネに預けたイエスの心情は？と、いうのはダミーで、質問を変えます、とおもいきや、やっぱりこの問いを考えてください。

う：ヨハネ2章4節と関連させたのはなんで？

宮：冷たい言葉を母親に発したからということではなく、こういう記述もあったよということで参考箇所を挙げさせてもらいました。

＠：自分がイエスの立場になっていたらどうだろうと考えたらわかりやすいと思います。イエスにとっては世話する人のない母が気がかりだった。

う：でも、イエスの実の弟妹もいたわけよね。大事なお母さんをどうして弟子のヨハネに預けたのでしょう？ヨハネを信頼していたから？死の間際に母のことを思いやるのは母を非常に愛していらっしゃったからじゃないかなと個人的に思うのです。あと、ヨハネって確かお金持ちだったんじゃないかなと。だから母を預けたという部分もあったかと。

宮：そういや、この頃にはイエスとマリアは連絡の取り合いがあったのでしょうか？

水：おそらく、母マリアは未亡人。複雑な親子関係が合ったのでしょうね。ナザレからエルサレムはかなりの距離がある。年齢的に子育ても終わっていることもあって、マリアはイエスに関わることができたのでしょうね。

う：自分が母だったとして、息子が十字架にかかるところをみるのはどういう気持だったかと思うのです。そして、イエスが絶命するまでイエスと共にいるというのは愛情というわけではないけれども深い思いやりを感じます。大切なことではないかなと。やっぱり、イエスとマリアの間にはやはり深い愛情のようなものがあったのではないかなと。

Q3.28節「渇く」とはどういう意味？/この時イエスは何を思って「渇く」と言ったのか？（Cf.マタイ27章,マルコ15章,ルカ23章）

宮：この辺りは特別難しいところは無いと思いますが、「渇く」というのはいったいどういう意味だったのか、イエスはなぜこういった言葉を発したのか、聞いてみたいと思います。

♀：「ぶどう酒＝血」というから、**血が足りねえ**とか？

F：詩篇に参照箇所があるっぽいですよ。

全員：確かに。

水：ヨハネの福音書の中で「渇く」というテーマで、大切なことを言っている箇所が2つあるのですが。。。

（ざわ・・・ざわ・・・）

う：7章の37節からですね。

水：あと、4章の12節ですね。両方に共通しているのは、イエス自身が「私が渇きを潤す」と言っている。この箇所ではそのイエス自身が「渇く」と言っているのです。ここについて考えてもらいたいと思うのです。

ｈ：「完了した」といった直後だから、自分は全ての潤いを与え尽くして「渇く」と発言したと思います。

＠：最後に死ぬときに、他の福音書では主よ、なぜ見捨てたのですか。と言っている。こういう時にイエスは神の子ではなくなったので「渇く」といったのでは？

♀：今までは神の子として潤わせていた。その役目が終わり、人の子となったので、渇いたということではないかなと。ｈ兄の解釈も正しいなあと。

＠：ずっと父を慕ってきたイエスがなぜ死ぬのか。これは聖書を読む上でずっと持ってきた疑問なんですね。

宮：自分は、今まで潤いを与える立場であったイエスが精神・身体共に痛みを感じたことで、イエス自身も神を欲したのではないかなと思いました。

ｈ：それでも酸っぱいお酒しかもらえなかったとか。

宮：あれ、すごい飲ませ方だよね。現代の感覚的にはあれ酷いなと。

♀：でも、流し込んだらきついんじゃない？

ｈ：酸っぱいお酒ってまずいのでは？

う：普通に兵士とかが飲んでたらしいけど。

＠：現代でもありますよね。「ブドウ酢」とか

全員：それは酒じゃない。

水：皆さんは「渇く」という経験はありますか？渇きというのは人間にとっての、さみしさ、辛さ、苦しさだと思います。イエスはこの瞬間に人間が抱えている孤独などの渇きを感じている。compassion：共感という言葉がありますが、イエスはここで人間にとっての「渇き」を感じているのです。つまり、人間の苦しみを理解しているのです。「渇く」といったあとで「完了した」と言っている。これは、十字架でこの世の渇きを知った。これにより、この世で行うべきことが「完了した」といっているのです。ここはかなりの重要箇所なので、将来時折思い出してくれたらいいなと思います。

Q4.神を求めた経験